

# ふるさと歴史アラカルト

## 早乙女塚

周東町瀬越の檜余地で、毎年8月14日に踊られている精霊踊り「早乙女踊り」にまつわる話を紹介します。

踊りの歌詞によると、檜余地の里は烏帽子岳から流れる清らかな水に潤されて作物が豊かに実り、人の情けも細やかで「春のツツジと秋の月、夏の涼しさ冬の雪」と、四季も趣がある理想的な里でした。

寛永2(1625)年、田植えの時期、里の老人も若者も田植え仕事に精を出していました。早乙女たちは手拭いをかぶり紅色のたすきを掛け、歌を口ずさみながら苗を植え、里にはのどかな光景が広がっていました。

その時、一人の武士が御上使峠(周東町上須通と瀬越の間にある峠)を越え、里のあぜ道を通り掛かりました。しかし運悪く、代掻きをしていた若者の牛が泥水をはね、武士の袴の裾を汚してしまいます。これに怒った武士は刀を抜き、若者に今にも切りかかる勢いでしたが、里人はなすすべもなく見ていることしかできませんでした。

そこへ、早乙女の集団から一人が走り出てきます。若者の妻で、夫の危機を救うために武士の袂にすがりつき、自分の命を顧みることなく涙ながらに嘆願したのでした。しかしそれも空しく、武士はその妻を刀で一打ちにし、妻は倒れ込み、田んぼの水を赤く染めて、亡くなってしまいました。

その後、悲嘆に暮れた里人は相談し、塚を建てて「早乙女塚」と名付け、彼女の冥福を祈るために精霊踊りをして供養しました。これが「早乙女踊り」として現代まで踊り継がれています。

この早乙女塚についての話は、市内の差川と久杉にあるほか、周南市や平生町にも残っています。その多くは、早乙女の足が武士に触れたことや、早乙女が武士に笑顔であいさつしたことなど、たわいもないことに対して、武士が怒り早乙女を斬り殺したという話になっていきます。

武士、農民といった身分制度が、こうした話を多く生んだのかもしれない。武士、農民といった身分制度が、こうした話を多く生んだのかもしれない。

※田植えをする女性

### 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452  
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

▶早乙女塚



▶昭和35年に高森天神で披露された早乙女踊り



## 岩国市 人口・世帯

人口	138,525人	【前月比 - 89人】	男性	65,726人	女性	72,799人
世帯	66,267世帯	【前月比 - 45世帯】	※外国人人口を含む(平成28年11月1日現在)			

交通事故発生件数 10月分事故件数 68件(421件) 死者数 0人(6人) 傷者数 77人(499人)  
※高速道路発生分を除く ※( )内は平成28年累計

広報テレホン 休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ 「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337